

い
ず
み
さ
の
教
育



問合先
学校教育課

教育支援センター「さわやかルーム」「シャイン」

「不登校」という言葉を聞いたことはありませんか。

文部科学省の定義では「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために年間30日以上欠席した者（病気や経済的な理由による者を除く）」を「不登校」と言います。

文部科学省の調査によると、近年、全国的に不登校の児童生徒は増える傾向にあります。

そこで、市では、学校に行きたいけれど行けない児童生徒に対して、家庭と学校の中間的居場所として教育支援センター「さわやかルーム」（南部市民交流センター本館3階 447・7312）、「シャイン」（北部市民交流センター青少年分館2階 464・8750）を設置しています。この教育支援センターでは、学習支援のみならず、様々な生活体験や人とのふれあいを通して児童生徒の心のエネルギーを高めていく活動を行い、学校とも連携して入室生が学校復帰出来るよう支援しています。

両教育支援センターには、センター長とスタッフ、そして、カウンセラーを配置し、児童生徒とその保護者からのいじめ、不登校、子育て、進路といった相談も受けています。また、メンタルフレンドと呼ばれる大学生を中心とするボランティアが、入室生に寄り添いながら相談相手になったり、学習面のサポートを行ったりしています。

さらに、市教育委員会では、毎月、不登校対策サポート委員会を開催し、各校の不登校担当者や家庭の教育機能総合支援指導員などが、取組みの検討・検証を行ったり、よりきめ細やかな指導ができるよう専門的なスキルを身につける研修を行ったりしています。

今後、市では不登校を未然に防止するための魅力ある学校づくり、より良い人間関係づくり、そして、不登校の児童生徒に対しては、心の居場所づくり、学校復帰をめざして取り組んでいきます。

学校園紹介



花いっぱい
～長南中学校～

本校の重点目標の中に「環境が整備され、花の咲く、緑豊かな学校をつくろう」があります。その目標に向かって進んでおり、今はいろいろな人のお陰で、花のある環境となっています。花は人の心を和ませ、落ち着かせるものと考えています。ここで本校の花のある現状を紹介します。

●みんなで育てる「花いっぱいプロジェクト」

本校では、2年前から「花いっぱいプロジェクト」に申し込んで参加させてもらい、大阪府の岸和田土木事務所から花の苗をいただきました。花は、寒さに強く育てやすいパンジーです。今年は3年目で最終年度となり、いただいた苗は、育てて近くの公民館など地域にも配布しています。

●華道部のお花

本校には華道部があり、華道の先生が教えに来てくれます。入学式や卒業式には華道の先生と華道部の生徒が式の花の飾り付けをしてくれています。その式で使った花などを玄関に生けてくれて、生徒や外部からのお客さんを歓迎しています。



●有志による花

時には保護者が花を持ってきてくれ、生け花として飾ることもあります。また、教職員が持ってきた花を植えることもあります。



●おわりに

植えた花の育成と管理では、環境委員の生徒や校務員さんが水やりをしてくれ、みんなで花のある学校づくりに努めています。

心に届く歌声
～末広小学校～

末広小学校では、友だちとつながる力を高めることをめざして、豊かな心を育む授業づくりを進めています。情操を培う教科のひとつである音楽の授業では、コミュニケーションはからだ全体の表現と考え、歌で気持ちを伝える歌唱を学んでいます。歌を歌うとき、歌詞の意味が深く理解できると、からだの動きと声が変わってきます。末広小学校の子どもたちの歌声は、胸に沁み琴線に触れ、周囲とつながる「ことば」になっています。

●仲間とつながる歌声

校内音楽会では、積み上げてきた伝統の歌声で、会場にいる全員の気持ちがひとつになります。練習を重ねることで、仲間との絆は一層強化されます。



●専門家とつながる歌声

交響楽団や和楽器に関わっている人から、音楽の基礎や楽しさを教えていただきます。協働して合奏や合唱に挑戦することで、高い水準での共感を体験します。



●世界とつながる歌声

広島平和記念公園への修学旅行では、「平和の子の像」の前で平和を願う歌を歌います。平和記念公園には外国の人を含めたくさんの訪問者がいますが、末広小学校の歌声は人々を引き付け、涙を流しながら慰霊祭の様子を見てくれる人もいます。歌声は外国のみなさんにも、確実に届いています。

